

（議題 2）令和6年度事業実績報告

- 1 展示活動・・・・・・・・・・・・・・・・・・（P 1）
 - (1) 企画展実施一覧・・・・・・・・・・（P 1）
 - (2) 第38回企画展
芭蕉の俳風 ～新しきは俳諧の花なり～・・・・・・・・（P 2）
 - (3) 第39回企画展
芭蕉さんの姿・・・・・・・・・・（P 4）
 - (4) 第40回企画展
川と道の織りなす芭蕉の旅・・・・・・・・（P 6）
- 2 教育普及活動・・・・・・・・・・・・・・・・（P 9）
 - (1) 総合監修者講演会・・・・・・・・・・（P 9）
 - (2) おおがき芭蕉大学・・・・・・・・・・（P 9）
 - (3) おおがき先賢大学・・・・・・・・・・（P10）
 - (4) 学芸員実習の受け入れ・・・・・・・・（P11）
 - (5) 講師派遣・・・・・・・・・・・・・・・・（P12）
 - (6) ふるさと魅力体験事業・・・・・・・・（P13）
 - (7) 視察等受入・・・・・・・・・・・・・・・・（P14）
- 3 資料の収集活動・・・・・・・・・・・・・・・・（P15）
- 4 その他・・・・・・・・・・・・・・・・・・（P17）

1 展示活動

(1) 企画展実施一覧

回数	題 名		会 期	入館者数
	【内容】			
38	芭蕉の俳風～新しきは俳諧の花なり～		令和6年3月30日（土）～ 令和6年5月12日（日）	4,351人
	【内容】	芭蕉は、古人の心や作品を大切にするとともに、その生涯にわたって、常に新しい境地を求め、自らの俳風を変化させていった。それは、門人たちとの交流や『奥の細道』の旅をはじめとする旅の中で醸成されたものである。本企画展では、芭蕉の俳風の流れについて、関係する作品や資料を通して紹介した。		
39	芭蕉さんの姿		令和6年7月13日（土）～ 令和6年8月25日（日）	2,635人
	【内容】	旅を通じて新しい俳風を求め続けた芭蕉の姿勢は、時代が下るにつれて、人々の間に広く浸透し、俳諧史上における芭蕉の位置づけに影響を及ぼしていった。本企画展では、芭蕉が俳人として活動していた実際の姿と後世の人々が思い描いた芭蕉の姿について、ゆかりの作品や資料を通して紹介した。		
40	芭蕉生誕380年記念事業 川と道の織りなす芭蕉の旅		令和6年10月5日（土）～ 令和6年11月17日（日）	3,237人
	【内容】	「旅の詩人」と称される芭蕉にとって、川を渡り、街道を歩く際に抱いた思いは、作品を生み出す原動力となった。本企画展では、川や道と芭蕉との関わりについて、『奥の細道』のむすびの句「蛤のふたみに別行秋ぞ」が記された芭蕉の真筆をはじめ、ゆかりの資料を通して紹介した。		

(2) 第38回企画展

- ① 題 名 芭蕉の俳風 ～新しきは俳諧の花なり～
- ② 会 期 令和6年3月30日（土）～令和6年5月12日（日）【入館者数：4,351人】
- ③ 内 容 芭蕉は、古人の心や作品を大切にするとともに、その生涯にわたって、常に新しい境地を求め、自らの俳風を変化させていった。それは、門人たちとの交流や『奥の細道』の旅をはじめとする旅の中で醸成されたものである。本企画展では、芭蕉の俳風の流れについて、関係する作品や資料を通して紹介した。

④ 展示資料

- ・芭蕉筆「ふる池や」発句短冊合装露川極書（福田美術館蔵）
- ・芭蕉筆「なにの木の」等二句懐紙（個人蔵）
- ・芭蕉筆「洒落堂記」懐紙（当館蔵） ほか

⑤ 学芸員によるギャラリートーク

回 数	と き	参 加 者
第1回	3月31日（日）	9人
第2回	4月14日（日）	22人
第3回	4月28日（日）	14人
第4回	5月12日（日）	14人
計		59人

⑥ 企画展関連講座

- 1) と き 令和6年4月21日（日）
- 2) と ころ 奥の細道むすびの地記念館 2階 多目的室1
- 3) 演 題 初公開 芭蕉筆「なにの木の」等二句懐紙をめぐって
- 4) 講 師 筑波大学名誉教授 清登 典子 氏
- 5) 参加人数 65人
- 6) 受講料 無料

⑦ 講座のアンケート結果

- ・懐紙の真筆の説明を、筆跡・内容・伝来の三つの観点から分かりやすく聴くことができ、大変ありがたかった。
- ・講師のお話は明快で聞きやすかった。真筆かどうか…歴史のミステリーとも言える内容だった。

⑧ 展示会場



現代俳人が選んだ好きな芭蕉の発句（上位 10 句）

※あなたがお気に入りの句にシールを貼ってね。
好きな句が上位 10 句の中に見当たらない方はフセンに書いて貼ってみよう。

発句	作次年
1 芭蕉や佐渡によこたふ 天 河	元禄 2
2 閑さや岩にしみ入 鶯の 声	元禄 2
3 蘆草や 兵 どもが夢の跡	元禄 2
4 旗に病で夢は枯野を かけ 廻る	元禄 7
5 五月雨をあつめて 早し 最上川	元禄 2
6 海くれて 鴨のごまほのかに 白し	貞享 元
7 此道や行人なしに 秋の 暮	元禄 7
8 石山の石より 白し 秋の 風	元禄 2
9 五月雨の降のこしてや 光 榮	元禄 2
10 秋深き 鶴は何をする人ぞ	元禄 7

お気に入り

現代俳人が選んだ好きな芭蕉の発句（上位 10 句）

※あなたがお気に入りの句にシールを貼ってね。
好きな句が上位 10 句の中に見当たらない方はフセンに書いて貼ってみよう。

【興味を持ってもらう工夫】
芭蕉の好きな句にシールを貼ったり、付箋に書いて貼ったりできるようにした。

(3) 第39回企画展

① 題 名 芭蕉さんの姿

② 会 期 令和6年7月13日（土）～令和6年8月25日（日）【入館者数：2,635人】

③ 内 容 旅を通じて新しい俳風を求め続けた芭蕉の姿勢は、時代が下るにつれて、人々の間に広く浸透し、俳諧史上における芭蕉の位置づけに影響を及ぼしていった。本企画展では、芭蕉が俳人として活動していた実際の姿と後世の人々が思い描いた芭蕉の姿について、ゆかりの作品や資料を通して紹介した。

④ 展示資料

- ・元禄5年2月18日付曲水宛芭蕉書簡（個人蔵）
- ・月樵画・奚花坊賛「やま路来て」句芭蕉像（当館蔵）
- ・曲阜筆 芭蕉涅槃図（当館蔵） ほか

⑤ 学芸員によるギャラリートーク

回 数	と き	参 加 者
第1回	7月14日（日）	22人
第2回	7月21日（日）	17人
第3回	8月11日（日）	10人
第4回	8月25日（日）	20人
計		69人

⑥ 企画展関連講座

- 1) と き 令和6年8月18日（日）
- 2) と ころ 奥の細道むすびの地記念館 2階 多目的室1
- 3) 演 題 濁子・素堂との交友から見る芭蕉の紀行文
- 4) 講 師 公益財団法人東洋文庫専任研究員 深沢 眞二 氏
- 5) 参加人数 54人
- 6) 受講料 無料

⑦ 講座のアンケート結果

- ・『奥の細道』が大垣で終わる理由が、濁子にあるという話が聞けて面白かった。
- ・濁子や杉風が芭蕉の苦しい時を支えたことで、『奥の細道』をまず読ませたい存在になっていったことに納得した。
- ・芭蕉が門人以外では濁子や杉風宛に遺状を残していることが、彼らとの関係性を物語っていると思った。

⑧ 展示会場



【興味を持ってもらう工夫】
展示作品に記された芭蕉の名前を知ることができる
クイズ形式のめくりパネル



(4) 第40回企画展 ※芭蕉生誕380年記念事業

① 題 名 川と道の織りなす芭蕉の旅

② 会 期 令和6年10月5日（土）～令和6年11月17日（日）

【入館者数：3,237人】

③ 内 容 「旅の詩人」と称される芭蕉にとって、川を渡り、街道を歩く際に抱いた思いは、作品を生み出す原動力となった。本企画展では、川や道と芭蕉との関わりについて、『奥の細道』のむすびの句「蛤のふたみに別行秋ぞ」が記された芭蕉の真筆をはじめ、ゆかりの資料を通して紹介した。

④ 展示資料

- ・元禄2年9月22日付杉風宛（推定）芭蕉書簡（個人蔵）
- ・芭蕉筆「やはらかに」発句・脇懷紙（島田市指定文化財、島田市博物館蔵）
- ・芭蕉筆「蛤の」句懷紙（当館蔵）【市収蔵後、初公開】 ほか

⑤ 学芸員によるギャラリートーク

回 数	と き	参 加 者
第1回	10月13日（日）	34人
第2回	10月27日（日）	20人
第3回	11月10日（日）	19人
第4回	11月17日（日）	15人
計		88人

⑥ 企画展関連講座

- 1) と き 令和6年10月12日（土）
- 2) と ころ 奥の細道むすびの地記念館 2階 多目的室1
- 3) 演 題 江戸の旅の歴史からみた芭蕉の旅
- 4) 講 師 山形県立米沢女子短期大学教授 原 淳一郎 氏
- 5) 参加人数 45人
- 6) 受 講 料 無料

⑦ 講座のアンケート結果

- ・『奥の細道』には伝統を重んじる中世的要素がみられると知り、少し驚いた。
- ・橘南谿が、先人の紀行文には实景の描写がないことや昔の紀行文は詳細に記していないと批判するなど、強い不満を抱いていたことを知ることができた。

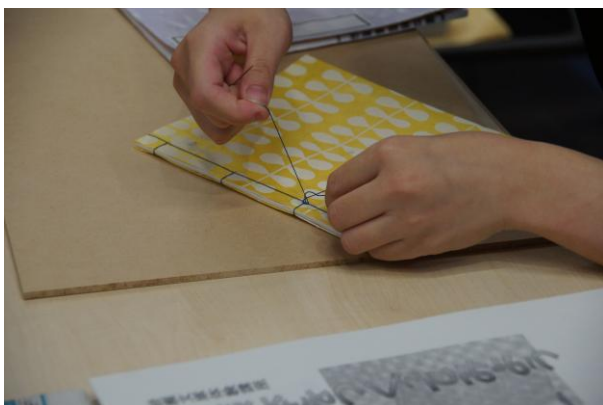
⑧ 体験講座

- 1) と き 令和6年10月5日（土）
- 2) と こ ろ 奥の細道むすびの地記念館 2階 多目的室1
- 3) 名 称 子どもも大人も楽しめる和装本づくり
- 4) 内 容 俳諧など江戸時代の文化を支えた出版業にちなみ、オリジナルの和装本を作成する。
- 5) 講 師 西尾市岩瀬文庫学芸員 青木 眞美 氏・上野 加耶子 氏・岩瀬文庫ボランティア
- 6) 参 加 者 29人

⑨ 体験講座のアンケート結果

- ・ボランティアの方に親切に教えていただいた。素晴らしい活動だと思う。
- ・初めての体験を親子で楽しめた。
- ・引き続き、住民が芭蕉に親しめるイベントを開催していただきたい。

⑩ 体験講座の様子



⑪ 展示会場



【興味を持ってもらう工夫】
有料ゾーン入口に企画展
開催中であることがわかる
ように大きな幕を設置

2 教育普及活動

(1) 総合監修者講演会

奥の細道むすびの地記念館総合監修者である佐藤勝明教授の講演を開催した。

- ① と き 令和6年11月24日（日）
- ② と ころ 奥の細道むすびの地記念館 2階 多目的室1
- ③ 演 題 蕪村と同時代の連句はどのようなものか
- ④ 講 師 和洋女子大学教授 佐藤 勝明 氏
- ⑤ 参加人数 46人
- ⑥ 受講料 無料
- ⑦ 講座のアンケート結果

- ・「芭蕉流」の付合がよく分析されて、わかりやすく解説していただき、とても勉強になった。
- ・質問に出た宗匠の「さばき」は興味深かった。初案と完成稿の違いがわかると面白いと考える。

(2) おおがき芭蕉大学

全国有数の俳文学の研究者を招いて、様々な切り口から、『奥の細道』や松尾芭蕉についての講座を開催する。 【各回募集、受講料無料】

① 講師・内容等

と き	演 題	講 師	参加者
令和6年 6月 9日（日）	捨女の作品と人生 ～女性俳人の句を読む～	白百合女子大学非常勤講師 永田 英理 氏	58人
12月 1日（日）	森川許六の絵画	彦根城博物館学芸員 高木 文恵 氏	45人
12月22日（日） ※9月1日（日） の延期分	許六と彦根俳壇 ～藩士たちの風雅～	成蹊大学准教授 牧 藍子 氏	52人

② と ころ 奥の細道むすびの地記念館 2階 多目的室1

③ 感 想

- ・捨女の句が技巧的でパロディがあり面白かった。句にユーモアがあったと思った。連句を一人で詠んだことが印象的だった。（6月9日分）
- ・許六と英一蝶の画の比較から、具体的な特徴がよく理解できた。（12月1日分）
- ・彦根蕉門を知ること、美濃地方と比較することができた。（12月22日分）

(3) おおがき先賢大学

先賢館で展示している先賢やその関係者に焦点を当て、全国各地の研究者を招いての講演会を開催する。 【各回募集、受講料無料】

① 講師・内容等

と き	演 題	講 師	参加者
令和6年 7月 7日 (日)	東京大学理学部化学科日本人初代教授松井直吉 ～櫻井錠二、池田菊苗とともに～	化学史学会副会長・東京大学大学院学術研究員 河野 俊哉 氏	64人
9月 1日 (日)	一道砲声、天に雷震す ～梁川星巖と吉田松陰の交わり～	金城学院大学教授 桐原 健真 氏	58人
令和7年 1月19日 (日)	宮内官僚・戸田氏共と岐阜・大垣 ～お殿さまたちの再就職～	宮内庁宮内公文書館研究職 篠崎 佑太 氏	68人

② と こ ろ 奥の細道むすびの地記念館 2階 多目的室1

③ 感 想

- ・松井直吉以外にも、関連した有名な方々を説明して頂けて、楽しい講義だった。
(7月2日分)
- ・梁川星巖が吉田松陰の開国論を否定せず、宮中に届けて天覧に達したということが興味深かった。(9月1日分)
- ・宮内庁の資料の面からの講話は、今まで知らなかった氏共の生活の新たな面の一端を知ることができ、大変興味の湧く話だった。(1月19日分)

(4) 学芸員実習の受け入れ

学芸員実習の受け入れに際し、奥の細道むすびの地記念館等で実習を行った。

① 実習日程

日数	期 日	場 所
1日目	令和6年8月2日（金）	奥の細道むすびの地記念館
2日目	令和6年8月3日（土）	守屋多々志美術館
3日目	令和6年8月4日（日）	奥の細道むすびの地記念館
4日目	令和6年8月5日（月）	奥の細道むすびの地記念館、守屋多々志美術館
5日目	令和6年8月6日（火）	奥の細道むすびの地記念館

② 実習人数

3人（内訳：岐阜女子大学・滋賀県立大学・名古屋芸術大学）

③ 実習内容

- 1) 講 話 展示の企画運営、資料の取り扱いについて
- 2) 実 習 作品調査、作品解説、展示、古文書の整理、ワークショップ等

④ 講 師

守屋多々志美術館職員、奥の細道むすびの地記念館学芸員（文化振興課職員）

(5) 講師派遣

芭蕉や俳諧、先賢に関わる市内外からの依頼に対し、学芸員の派遣を行った。

月 日	講座・講演会名	内 容	参加者
令和6年6月24日(月)	大垣市役所「飛び出す市役所」出前講座(北小学校6年生)	大垣の先賢について	125人
令和6年7月2日(火)	大垣市役所「飛び出す市役所」出前講座(安井小学校3年生)	ふるさと大垣のじまをみつめよう～奥の細道むすびの地と大垣城について～	109人
令和6年10月2日(水)	大垣市役所「飛び出す市役所」出前講座(青墓地区センター)	第40回企画展「川と道の織りなす芭蕉の旅」の見どころ	30人
令和6年12月8日(日)	暢心書道会	第40回企画展「川と道の織りなす芭蕉の旅」を終えて	50人
令和6年12月18日(水)	大垣市役所「飛び出す市役所」出前講座(「西美濃観光ガイドの会」代表者会議)	『奥の細道』のむすびの句「蛤のふたみにわかれ行秋ぞ」を読み解く	30人
令和7年1月13日(月・祝)	伊賀びと俳聖芭蕉翁生誕380年記念「オンラインパネルディスカッション6 館学芸員が今、明かす奥の細道と芭蕉の心」(Zoom)	奥の細道むすびの地記念館の紹介、大垣と芭蕉との関わりについて	95人 (うちオンライン視聴42人)

(6) ふるさと魅力体験事業

① 目 的

市内小学生を対象とし、ふるさと大垣への愛着を深めるため、「奥の細道むすびの地」である船町川湊で吟行をするとともに、芭蕉や先賢、俳句を学ぶ機会として、奥の細道むすびの地記念館の見学を実施した。

② 対 象 大垣市内小・義務教育学校6年生

③ 実施実績 全19校のうち16校、1,268人（引率職員を含む）を受入

日程			学校名	参加人数（人）			
月日	曜	見学時間		児童	引率職員	計	クラス
5月8日	水	9：00～10：45	南 小学校	48	4	52	2
5月27日	月	10：05～11：50	綾里 小学校	20	1	21	1
5月29日	水	9：00～10：45	青墓 小学校	54	2	56	2
5月31日	金	10：05～11：05 14：05～15：05	北 小学校	128	4	132	4
6月3日	月	10：05～11：50	西 小学校	110	4	114	3
6月7日	金	10：05～11：50 14：05～15：50	中川 小学校	136	6	142	4
6月14日	金	10：05～11：20 13：45～15：00	小野 小学校	149	7	156	5
6月17日	月	10：05～11：50	江東 小学校	87	4	91	3
6月18日	火	9：15～10：40	日新 小学校	32	2	34	1
6月26日	水	10：05～11：50	赤坂 小学校	74	4	78	3
6月28日	金	10：05～11：50	荒崎 小学校	55	2	57	2
7月1日	月	10：05～11：50 14：05～15：50	東 小学校	77	3	80	3
7月3日	水	10：05～11：50	墨俣 小学校	42	3	45	2
9月4日	水	9：45～14：10	上石津 学園	29	1	30	1
9月20日	金	10：05～11：50	宇留生 小学校	83	4	87	3
10月4日	金	9：00～10：45	興文 小学校	90	3	93	3
				1,214	54	1,268	—

(7) 視察等受入

各種団体の記念館への視察を受け入れ、学芸員等が説明を実施した。

月 日	団 体	内 容	参加者
令和6年 5月 8日(水)	ベルギー ナミュール市 高校生 (まちづくり支援課要請)	施設見学	18名
令和6年 5月23日(木)	大垣市立西部中学校 1年生 (1クラス)	施設見学及び俳句吟行	35人
令和6年 5月29日(水)	市役所 2年目職員 (人事課要請)	令和6年度基本第2部研修 (俳句づくり、奥の細道むすびの地記念館見学)	35人
令和6年 6月19日(水)	学 校 法 人 西 濃 学 園 高校1年生	施設見学及び俳句づくり	20人
令和6年 7月16日(火)	大垣市社会教育委員 (社会教育スポーツ課要請)	令和6年度第2回大垣市社会教育委員の会 (第39回企画展見学)	5人
令和6年 7月19日(金)	岐阜県副市長会 (秘書広報課要請)	令和6年度定例第1回岐阜県副市長会 (施設見学)	42人
令和6年 7月26日(金)	東京都足立区副区長 ほか (都市計画課要請)	施設見学	7人
令和6年 8月 4日(日)	鹿児島市議会正副議長 (議事調査課要請)	施設見学	3人
令和6年 8月 8日(木)	岐阜女子大学博物館学 芸員課程受講者	施設見学実習 (博物館の概要、仕事内容、展示等)	28人
令和6年10月23日(水)	大垣市教育委員 (教育庶務課要請)	第7回定例教育委員会 (第40回企画展見学)	4人
令和6年11月28日(木)	伊賀市教育委員会教育 長ほか	伊賀市教育委員会視察研修 (施設に関する聞き取り及び施設見学)	11名

3 資料の収集活動

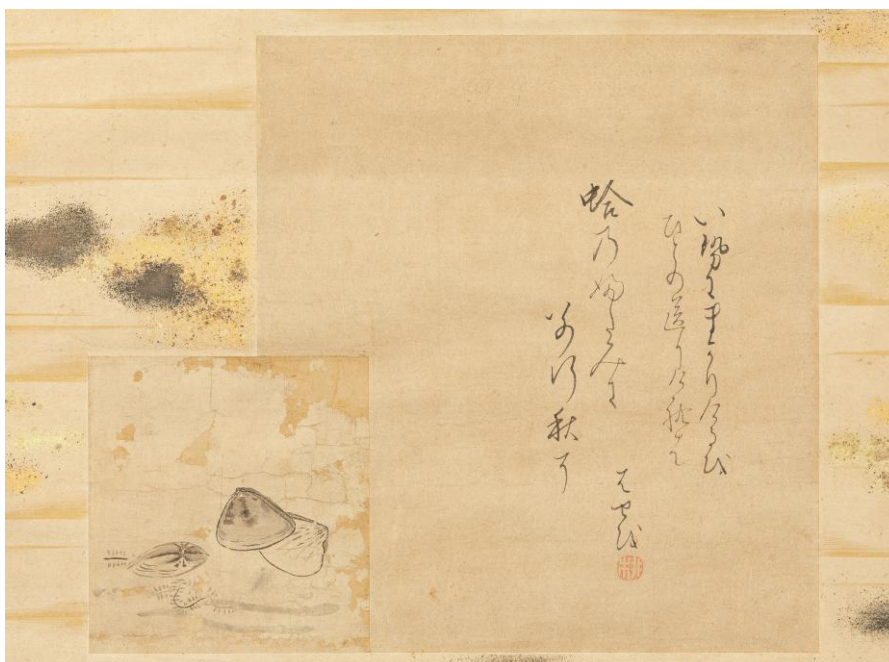
(1) 購入

購入年月	資料名
R 6. 4	奈越江木導筆幻住庵記画賛
R 6. 5	小原鉄心書簡（2通）
R 6. 6	『蛙合』
R 6. 7	芭蕉十哲の図
R 6. 7	『卯花笠』ほか2点
R 6. 7	芭蕉筆「蛤の」句懐紙 * ※芭蕉生誕380年記念事業
R 6. 11	谷木因肉筆発句短冊
R 6. 11	梁川星巖書状
R 6. 12	『三日のひかり』ほか5点
R 7. 1	南條文雄書簡
R 7. 1	和田万吉葉書
R 7. 1	各務支考書状

※令和7年1月購入分まで

* 【画像：芭蕉筆「蛤の」句懐紙】

- ・俳諧紀行『奥の細道』のむすびの句「蛤のふたみに別行秋ぞ」が記された真筆。
- ・国名勝「おくのほそ道の風景地 大垣船町川湊」（現・市内船町）に存在する「蛤塚」に刻まれた文字の原典に該当する。
- ・購入した後、奥の細道むすびの地記念館第40回企画展において初公開を行った。



(2) 寄附

寄附年月	資料名
R 6. 4	五竹坊筆「あの玉の」句画賛ほか3点
R 6. 4	『風俗文選』ほか5点
R 6. 9	廬元坊筆「かくれ家や」句文懷紙
R 6. 12	『続山井』、『諸国翁墳記』
R 6. 12	『本朝文鑑』ほか32点
R 6. 12	飯沼慾斎著「草木図説」草之部 稿本・付写生本 35冊 【岐阜県重要文化財（典籍）】 飯沼慾斎著「新訂草木図説」 47冊 【大垣市重要文化財（典籍）】 *

※令和6年12月寄附分まで

* 【画像：飯沼慾斎著「草木図説」草之部 稿本・付写生本 35冊、
飯沼慾斎著「新訂草木図説」47冊】

- ・安政3年（1856）から文久2年（1862）にかけて刊行された、飯沼慾斎著『草木図説』草部（全20巻）に関する資料82冊。
- ・『草木図説』は日本で初めて、リンネの分類法にもとづいて植物を分類し科学的に観察・図示した植物図鑑。
- ・平成24年4月より当館に寄託され、令和6年12月、預託者より寄贈を受けた。



(3) 預託

預託年月	資料名
R 6. 5	芭蕉筆「なにの木の」等二句懷紙ほか1点

※令和6年12月預託分まで

4 その他

・『増訂版 全文を読み切る『奥の細道』の豊かな世界』の刊行

芭蕉生誕380年記念事業として、佐藤勝明著『増訂版 全文を読み切る『奥の細道』の豊かな世界』を刊行した。増訂版は、平成29年度に刊行した初版の誤植を訂正し、佐藤勝明氏による書き下ろしを付け加えた。

- ① 著 者 奥の細道むすびの地記念館総合監修者 佐藤 勝明 氏
(和洋女子大学教授)
- ② 発 行 所 大垣市・大垣市教育委員会
- ③ 販 売 日 令和6年10月5日（土）から
- ④ 販売価格 1,200円（税込）
- ⑤ 販売場所 奥の細道むすびの地記念館内芭蕉庵等

